

Department of Economics for Life and Social Environment ▶ SEMINAR

暮らしの実態を見つめることから始める。

小池 隆生 教授 Takao Koike

私のゼミナールでは「現代日本の社会保障・社会福祉を考える」をテーマにしています。日本では現在、生活困難の最たる貧困を予防し削減する社会保障・社会福祉の機能が弱っています。いのちをつなぎ、将来の見通しをもって安心・安全な暮らしを送るために社会保障や社会福祉には何ができるのかを主な問題意識として、様々なゼミ活動を実施しています。年間のテーマ(例:障害を持つこと、老年学、学生のジェンダー意識、失業と暮らし等)を定め、学生主体のグループワークを基礎に研究を進めています。



あらゆる「なぜ？」をディスカッションを通じて解決へ導きます。

3年 高橋 千春 Chiharu Takahashi

小池ゼミナールでは、毎年度社会保障・社会福祉に関するテーマを決めて研究を進めています。今年度は「ジェンダー」というテーマを扱い、男女平等の社会を実現するためにはどうしたらいいかを考え、社会経済的条件や文化的・政治的条件のそれぞれの重要性を学んでいます。また、小池ゼミナールでは「なぜ？」を大切にしながら活動をしています。ゼミ生全員でのディスカッションを通じて解決に導く過程は難しいことありますが、全員で1つの結論にたどり着いた時はとてもやりがいを感じます。



\\ CHECK! /



300人の学生を対象に意識調査を実施。

今年度は「ジェンダー」をテーマに研究を進めました。この研究に際して、「専修大学生のジェンダーに関する意識調査」を行い、およそ300人の大学生の皆さんにご協力いただき、よりリアルな大学生のジェンダー意識を知ることができました。



企業の人事部の方を招くなど、就職へも役立つ学びがたくさんあります。

2年 亀谷 健心 Kengo Kameya

山縣ゼミナールでは、ゼミ生同士が学年を問わず仲良く日々課題・研究に取り組んでいます。また、山縣先生とは勉強の話だけではなく、プライベートの話もするなど、近い距離感で接しています。山縣ゼミナールでは「働く」ことが大きなテーマで、その中で学生一人ひとりが気になるテーマを見つけ、学生同士で発表、議論を行っています。また、企業の人事部の方を招き、実際にお話を聞くなど就職活動の面でもたくさんの経験をする事ができます。



\\ CHECK! /



細かな疑問も直接聞ける距離の近さ。

山縣ゼミは先生と生徒の距離が近く、集中するときは集中し、抜くときは抜き、オンとオフをしっかりと研究を行っています。ゼミの最中は写真のように課題の細かなことについて、先生から実際に教えてもらうなどしています。

「働く」ことに関する課題を探る。

山縣 宏寿 准教授 Hiromasa Yamagata

今日、「働く」ことをめぐり、働いても生活が成り立たない、働きすぎ、あるいは育児・介護との両立等々、多くの問題が山積しています。私のゼミは、「働く」ことにまつわる課題・問題について、個人レベル、組織レベル、社会レベルから検討を行っています。また大企業の人事部のトップなど、実務家を招聘し、就職活動を念頭においた演習も行っています。ゼミでは、もちろん勉強も大切ですが、他のゼミ生と交流、活動を通じて、仲間としての信頼関係をしっかり作ることも大切にしています。

